

子どもたちの学力を把握する目的で毎年実施される全国学力・学習状況調査が、今年度は5月に行われました。その結果を分析し、細呂木小学校6年生の学習の課題と指導の改善点についてまとめました。

学校として良かった点	
国語	算数
<p>◎資料を説明するために、どのように話すかを選択する問いの正解率が高かった。</p> <p>◎条件作文で、文字数に関する条件をしっかりと満たすことができていた。</p> <p>◎どの答案用紙からも前向きにしっかりと考えて解答しようとする意欲が感じられた。</p>	<p>◎記述問題では「【〇〇さんの説明】と同じように」説明する問題で、説明の例を活かして記述したり、グラフから読み取ったことを言葉や式に表して説明したりすることを、適切に記述できる児童が多かった。</p> <p>◎「量と測定」領域での正答率が高かった。</p>
学校として課題としている点	
国語	算数
<p>△記述問題では、書くべき内容は全体的に正しくとらえているが、条件を見落としている。</p> <p>△自分の考えに説得力をもたせるために伝えるべき、「自分の考えの理由」が書けていない。</p> <p>△こそあど言葉を使った文章を、必要な言葉に直してまとめることが苦手である。</p> <p>△文の中における修飾と被修飾との関係が正しくとらえられていない。</p> <p>△選択肢の文章を最後まで読まず、最もらしいもので判断をしてしまう。</p>	<p>△記述の問題では、最終的に問われていることに対しての結論を欠いている児童がいた。</p> <p>△1Lの大きさを表している図を基に、分数の大きさを図から解釈できていない。</p> <p>・異分母分数のたし算の方法、円周率の知識などの基本的な内容が定着していない児童がいる。</p> <p>△複数の領域の知識を利用し、記述で解答する数学的な考え方の問題の正答率が低い。</p>
課題を改善するためにこれから取り組んでいくこと	
国語	算数
<p>①授業の中で、条件を意識して自分の考えをまとめる時間を設けます。</p> <p>②こそあど言葉を使った文章を、必要な言葉に置きかえる学習を取り入れます。</p> <p>③主語・述語、修飾語と被修飾語などの関係の学習を、小単元の学習の時だけでなく、機会があるごとに取り入れていきます。</p>	<p>①分数が導入される2年生から、分数の意味を図を使って丁寧に指導することで、定着させます。</p> <p>②基本的な知識や計算の技能の習得を図ります。</p> <p>③求め方や理由を式や言葉で説明する学習を多く取り入れ、分かりやすい説明の仕方や記述</p>

の方法が身に付くようにします。

児童質問紙の結果から、本校6年生の特に取り上げるべき点についての状況分析と考えられる今後の課題についてまとめました。

ICT 関連について	
状況	考えられる課題
<ul style="list-style-type: none">・平日にテレビゲームをしている時間は、3時間以上が4.8%、2～3時間が42.9%、1～2時間:33.3%だった。・平日に ICT 機器を学習のために利用している時間は、30分～1時間が28.6%、30分より少ないが28.6%、まったくしないが28.6%だった。・全ての児童が、学習の中で ICT 機器を使うのは勉強の役に立つ、どちらかといえば役に立つと思っていた。	児童は学習での ICT 活用に有効性を感じている。しかし、家庭では、学習はほとんど応用できていない状況である。学習アプリを導入するなど、児童が学習に ICT 機器を活用できる環境整備が必要であると感じる。ICT 機器を学習で「身近に使えるもの」という認識が大切になってくる。
学校生活や人間関係について	
状況	考えられる課題
<ul style="list-style-type: none">・全ての児童が、学校に行くのは楽しい、どちらかといえば楽しいと答えた。・全ての児童が、友達と協力するのは楽しい、どちらかといえば楽しいと答えた。	小学校の生活では、みんなで活動することを楽しく感じていた。しかし、これまで同じメンバーで6年間を過ごしており、慣れ親しんだ人間関係のため、中学校へ進学した際の不安を抱く児童は比較的多い。
自分自身に関すること	
状況	考えられる課題
<ul style="list-style-type: none">・自分には良いところがある、どちらかといえばあると答えた児童は、85.7%、どちらかといえば良いところはないと答えた児童は14.3%だった。・全ての児童が、難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している、どちらかといえば挑戦していると答えた。・将来の夢や目標を持っている児童は81%、どちらかといえば持っている児童は14.3%、どちらかといえば持っていない児童は4.8%だった。	自己肯定感は比較的高く、前向きに生活しようとする児童が多い。今後も良い所を見つけて「ほめる・認める」ということを意識しながら教育活動を行っていくことで、さらに前向きな生活を促したい。